

(令和5年度)
学校自己評価書

園番号	園名
702	都祁こども園

702都祁こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策		
I 教育 活動 に 関 す る も の	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標の設定	・園の取り組み、方針を周知する。 ・職員の適正に応じた、配置を行う。	・年度当初に全職員に方針を示し、子ども理解や捉え方等方針に即した視点を共有し確認した。	A	・保育者全員で教育・保育目標の共通理解を図った。 ・0歳児から5歳児の育ちを見通した全体的な計画の作成に取り組んだ。また、保護者に園の取り組みや教育保育内容や子どもの育ちを伝えるために、ドキュメンテーションやホームページを作成することで、園で大切にしていることの確認にも	・年度当初、職員全員による方針の共通理解することの重要さと日々の保育の振り返りの中での方針の確認がなれないかなど、職員間で語り合い意識を持つことが必要である。		
		② 教育計画の作成	・園務分掌では、全職員が業務内容を理解できるように伝え、助け合える環境を整えるようにする。	・0歳児から就学前までの育ちをバンビーノプランや「10の姿」を意識し全体的な計画の作成に取り組んだ。	A				
		③ 教育課程の編成	・縦横(各クラス・長時間・子育て支援・特別支援・調理室)の連携を密にする。	・園務分掌の内容については、前年度のものを引き継ぎ気づきを共有し、組織の一員であることを意識づけていった。	A				
		④ 教育活動の評価	・保護者、地域による教育活動評価アンケートを実施する。	・保育の本質について問い直し機会を得た。	A				
	(2) 教育内容・保育指導	① 指導計画の立案	・幼保連携型認定こども園の特性を理解し、教育・保育要領やこども園カリキュラムバンビーノの理解を深め、計画や保育実践に反映させる。	・子どもの姿を振り返り、語り合う場を定期的に保障していった。 ・園内公開保育では、研究主題に沿って子どもの見方考え方について保育者間で深く話し合えるようにした。	A	・保育内容に関する園の取り組みについては、保護者アンケートでは90%以上の肯定的評価であった。 ・園内公開保育を行うことで保育内容や指導の工夫、子ども理解の視点等を学ぶ機会があった。	・園内外の研修を通して、遊びの環境構成や子どもの遊びの見取りの力を育成する。 ・子ども自らが主体的に活動できる環境構成や保育者の援助について言語化するとともに、意識向上と資質向上のための工夫を継続していく。		
		② 保育内容の精選	・園内研修を計画的に行い、資質向上に努める。	・園外研修については、研修への参加を促したり、参加しやすい体制を整えた。・園内公開保育・園内研修を年度初めに計画しておくことで予定通り実施することができた。	B				
		③ 指導方法の工夫改善	・園外研修や、リモートなどの研修など、参加しやすい環境を整え、できるだけ多くの職員が研修に参加できるようにする。	・	B				
		④ 評価			A				
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	・特色のある園行事の精選と実践。	・園における行事の意味や行事を経験することが子どもたちの何に繋がるのかを精選したことで子ども達は生き生きと活動することが出来た。	B	・行事について職員間で話し合い検討し、子どもの育ちに即した内容重視の行事を行った。 園児は、主体的に参加行事に参加し充実した体験をした。保護者アンケートから、保護者の理解の上、高い評価を得られた。	・行事ごとの評価反省を踏まえて、さらに園行事の精選を図り、どのような状況下でも子ども達がより豊かな経験ができるよう見直しをもって立案していく。		
		② 行事内容の精選	・園における行事の意味や行事を経験することが子どもたちの何に繋がるのかを精選したことで子ども達は生き生きと活動することが出来た。	・園における行事の意味や行事を経験することが子どもたちの何に繋がるのかを精選したことで子ども達は生き生きと活動することが出来た。	B				
			・行事の持ち方や行事の意味を職員で精選検討した。	・園行事には、子ども達が生き生きと活動し、各年齢の育ちや、日常の取り組みを伝える場となるような内容であった。					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	・保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中や生活の中で命の大切さや、一人一人大切な存在であることを伝え指導していく。	保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中や生活の中で命の大切さや、一人一人に愛情と優しさをもって関わっていけるように指導していった。また、多様性を自然と受け入れる園児の姿を通して、0歳児から5歳児までの育ちを職員間で共有し再認識し研究してまとめた。	A	・乳児幼児クラスの職員が、成長を通しての人権教育の在り方を探った。 ・人権や生命についての保護者アンケートでは、肯定的な評価が多かったものの優しさや思いやりが育ったかというところでは、評価が低かった。	・保育者自身の人権感覚を磨き、言動や子どもに対する言葉がけ日常の会話にも人権を常に意識する。 ・一人一人の存在を大切に思う気持ちを育てる取り組みを継続する。		
		② 保育内容の精選	・一人一人の子どもを大事に思い丁寧に関わられるよう全職員が、同じ意識で保育教育を行えるように指導する。	・人権チェックシートを用いて定期的に保育を見直す機会を設けた。	A				
		③ 指導方法の工夫改善			A				
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	・報告、連絡、相談、確認を綿密に行い職員共通理解もと適切な指導が行えるようにする。	・家庭訪問や参観などは実施できなかったが、個別により、家庭での状況や保護者の育児に対する考えを把握でき、子ども理解につながった。	B	・「園には子どものことで気軽に相談できるか」について、93%の肯定的評価であった。	保護者との信頼関係を構築する為には今後もコミュニケーションをとっていく。		
		② 教育相談・幼児理解	・園児についての相談事など家庭との連携を密にする。						
		③ 家庭との連携							
		④ 関係諸機関との連携							
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	・対処方針や指導計画が明確である	・気になる家庭については継続的に観察を行った。	B			・声掛けによって改善が見られている。	・継続して観察を行う。
			・日頃より実態把握・早期発見に努めている	・園内で情報共有した。	A			・職員間で情報共有が活発に行われた。	・情報共有の場を整える。
			・各学級の状況を園組織として共有できている	・クラス運営の中で一人一人の思いや考えに触れていった。	A			・園児一人一人へ丁寧に関わられた。	・継続して子ども理解に努める。
	・保護者や地域と連携できている		・関係機関や保護者と連携を取った。	B	・担任と園長副園長で連携を取った。	・今後も丁寧に連携を行う。			
		・組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・各関係機関と連携を取り情報共有して	B	・担任が中心となり行った。	・関係機関と継続的に連携を持つ。			
(6) 特別支援教育	① 推進体制	支援を要する園児を含めて一人一人が大切な存在であるということを根底に置き、クラス委運営をする。	・支援を要する園児の特徴や支援方法などを職員間で情報交換し共通理解をする。園全体で共通のかかわりができるようにする。	A	・保護者との信頼関係を構築することで、発達相談を受ける子どもが増えた。特別支援教育コーディネーターが、相談を受けたり立場から助言をしたり担任とともにかかわったことで、保護者も安定し子どもにも良い影響が現れた。	・支援を要する子どもが増加する傾向にあるので、研修を重ねたり体制を整えたりして適切な支援を行う。			
	② 個々に応じた特別支援教育の内容	・一人一人を丁寧に観察し、共通に子ども理解を深めて具体的な指導をする。	・各関係機関と連携を図り、スムーズな支援ができるように努めた。	A					
	③ 指導方法の工夫改善	・支援計画を作成し、家庭や関係機関と密に連携を図りながら支援を行う。	・特別支援コーディネーターを中心に一人一人の特性に合わせた支援ができるようにしていった。	B					
	④ 家庭との連携			A					
	⑤ 関係機関との連携			A					

(令和5年度)
学校自己評価書

園番号	園名
702	都祁こども園

702都祁こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策	
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の取り組み・方針を周知する。 職員の適正に応じた、配置を行う。 園務分掌では、全職員が業務内容を理解できるように伝え、助け合える環境を整えるようにする。 縦横(各クラス・長時間・子育て支援・特別支援・調理室)の連携を密にする。 各職位に応じた園での立ち場や目標を意識する。 働き方改革を意識しながら職員の心身の健康状態を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策についてを職員に周知し、安心安全な保育環境の整備に努めた。 年度当初に全職員に園の方針を示した。内容の理解については、書面や言葉で機会を捉えて伝えた。 園務分掌の内容については、前年度のことを引き継ぎ気づきを共有し、組織の一員であることを意識づけていった。 全職員が一堂に会して会議を行いにくい環境にあるが、無理のない時間帯を選び会議を行ったり、縦横の連携を強化して意思疎通を図った。 人事考課等で職位を意識できるような声掛けを行った。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 園ビジョンを共有し、職員が協力しあって各自が担当した役割を果たすことができていたのかを見直しながら取り組むことができた。 感染症拡大防止対策や対応について職員一同把握し対応することができたが、緊急対応について周知の必要がある。 園の取り組みや方針を共有できていた。 昨年と比較すると、組織の中の一員であることを意識し行動する職員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の一員として、園経営への参加意識を高めていく雰囲気づくりに努める。 職員間の情報共有や共通理解のために会議決定事項等パート職員へも周知する。 感染症の細やかな対応について再度、共通理解を行い、周知徹底する。
		② 園経営目標・方針						
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識						
		④ 園務分掌等の連携						
		⑤ 会議の運営と位置づけ						
		⑥ 会議の結果						
		⑦ 職場の人間関係						
		⑧ 園評価の実施						
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修を計画的に行い、資質の向上に努める。研修への参加について、参加しやすい体制をつくる。 コロナ禍において外部での研修参加が難しいので、リモート研修や園内研修の重要性を各職員が感じ、園内研への積極的な参加をする。 園内研修を計画的に行い、資質向上に努める。 研究主題や事例研修を通して具体的な子どもの姿を共有し、子ども理解に向けて子どもの見取について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題のテーマに基づき、子どもの姿を見取り、事例を書いていった。 市人教の発表に向かい0歳児から5歳児まで取り組んだ。 園内公開保育・園内研修を年度初めに計画しておくことで予定通り実施することができた。 園内公開保育では、研究主題に沿って子どもの見方考え方について保育者間で深く話し合えるようにした。 園外研修については、事後の園内研修につなげた。研修報告は職員開会の際に行い職員間で共有することができた。 研修で得た知識や取り組みを保護者にも伝え、園と保護者へも共有した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> リモート研修も多くあり園にいながら多数の職員が同時に同じ内容の研修に取り組むことができた。研修後の意見交換にもその良さが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の資質向上を目指して、研修体制を整えていく。 実技研修や他園の公開保育等実践的な研修が少なかったため、若手保育者には他保育者の保育を見て学ぶ機会を保障する。 保護者へ園の取り組みをや「10の姿」を知らせていくきっかけを作ることができたので、今後活かしていく必要がある。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施						
		③ 園外の研修への積極的参加						
		④ 園外研修内容の報告や伝達						
		⑤ 研修成果の普及						
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルの見直し。 防災計画の立案。 大規模災害・非常時における家庭との連携確認 災害時の職員の役割と動き方について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルの見直しと、危機管理に伴う訓練を毎月計画的に行った。 警察・地域安全協会・消防署など関係機関との連携を図り、安全教育につなげた。 災害時における職員の行動の確認と共に、保護者への大規模災害引き渡し訓練を実施。また、災害時の着替えなども必要物品の協力なども仰いだ。 感染症対策の強化実施。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応について懇談会時に保護者を伝えたり、毎月行っている避難訓練の意味や防災頭巾の活用また、訓練時の子どもの様子などについて伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を全職員で高め、非常時の行動を全職員が身に付ける。 定期的に保護者への啓発を行い、保護者と共に訓練の実施をする。
		② 防災計画の立案						
		③ 危機管理体制の整備						
		④ 安全指導の工夫改善						
		⑤ 家庭との連携						
		⑥ 関係機関との連携						
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる感染症について正確な情報を得て園児・保護者・職員の安心と安全を守る。また、園児の様子に気を配り心のケアにも努める。 園児の健康状態の把握を行う。家庭と職員間の連携を強化する。 食物アレルギー児への給食提供について、マニュアル通りに医師の診断をもとに家庭と園と連携を行う。 必要な情報提供を速やかに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児が自分の健康について関心を持てるような保育内容を積極的に取り入れ、新しい生活様式を取り入れ、園児自ら実践できるように指導した。 食物アレルギー児に対して、保護者・調理室・給食担当副園長・担任で毎月面談を行い安全な給食提供をした。 感染症対策として、情報の提供と共に看護師を中心に研修を行い対応の仕方考え方を共有し実践した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いうがいなど基本的な感染書予防は子ども達自ら取り組んだ。また、基本的な感染症対策を日常的に行った。 保護者への理解と啓発を行い、誤食等なかった。 保育中のケガや疾病に関しても連携を取り子どもの健康安全に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児や職員の健康管理安全管理に心がける。 園児の心身の健康について、相談しやすい雰囲気心がける。 園児への健康に関する啓発活動を行う。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備						
		③ 健康観察、健康管理能力の育成						
		④ 関係機関との連携						
		⑤ 昼食の衛生管理						
	(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 園小中校種を超えての連携を密にし、職員同士の理解を図る。 ホームページやでいあシート、たより等の更新の回数を増やす、ドキュメンテーションを玄関先に置くなどして園の様子を発信した。 地域の方と感染対策を取り、触れ合う中での子ども達の育ち意識するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流を大切にしながら、園児の育ちにつながる取り組みの精選に努める。 感染症対策を取り、地域との連携をどの様にしていくのかを探た。 校種を越えて交流し小学校との接続を意識し10の姿を通して園児の育ちを伝える。 園で作成しているでいあシートを小中学校に配布し、園の取り組みや子どもの育ちを発信した。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域に何を伝えたいのかを精査してでいあシートや、ドキュメンテーションを玄関先に置くなどして園の様子を発信した。 地域の行事の意味を精選し、日々の保育とのつながりを意識するようにした。 園小中の連携では、毎月1回の管理職会議に参加し、情報共有を行うことができ、園状況を理解してもらったり教育保育についても伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流を大切にしながら、園児の育ちにつながる取り組みの精選に努める。 小学校との接続を意識した連携を計画的積極的に図っていく。
		② 園(保育)公開						
		③ 小学校との接続・連携						
		④ こ幼保との連携						
⑤ P T Aの活性化								
⑥ 地域教育協議会との連携								
⑦ 学校関係者評価の実施								
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 園内の消毒・換気等を徹底する。 遊びの環境の見直し。 遊具点検を毎月行う。 危険個所の把握と対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のための園施設の消毒・換気、園児や保護者への啓発を行った。 月1度の遊具点検を職員が当番で点検した。 施設の安全点検を実施し、修繕必要箇所は修繕依頼を提出した。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 園児にとって安全で過ごしやすい環境であるか、常に新鮮な感覚で点検し、速やかに対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検を徹底して行なう 	
	② 施設設備の有効利用							
	③ 施設設備の管理							
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理について全職員で共通理解し、書類、データ、写真などの管理を徹底する。 個人情報を扱う場所についても限定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の漏洩、記録媒体の管理には細心の注意をするように職員全員に注意喚起を行った。 セキュリティー研修を全職員が受講し、情報管理について学んだ。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報漏洩、記録媒体の管理についての職員の意識が高まり、研修への積極的参加がみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が常に危機感もち職務を遂行していけるように意識を更に高めていく必要がある。 	
	② 公文書の作成							
	③ 個人情報の管理・保護							
	④ 情報の収集							